

～電車の中で読めなかった本体験～

- M「今回は特集に合わせて、電車の中で読めなかった本についてあれこれ語り合いたいと思います！さあ、キミたちのやっちゃった体験を述べよ」
- F「吹き出すとか？フツーに声が出てしまったことがありますよ、アノハと」
- M「面白い本ね。私は最近、荻原浩の『ストロベリーライフ』で久々に吹いたわ。家だったからよかったー」
- F「私は『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』とか」
- M「電車でおもしろいマンガとか読むときって、笑いをこらえて深呼吸！気を落ち着かせてまた読む。続きが読みたいのにここでは読めない！降りて誰にも見られないところで読むしか・・・っていう葛藤があるよね」
- F「(笑) わかりますー！」
- M「Aさんはないの？電車の中でのエピソード」
- A「うーん。電車の中で本は読みませんから・・・」
- M「またそんな展示テーマを根本から否定するようなことを・・・」
- A「でも面白い本は電車では危険ですよ。『おかんメール』は読めないかも」
- F「あとはどんなジャンルがあるでしょうか？号泣ものとか？」
- M「えー。号泣ものは別の特集でやりたいしなー」
- F「M先輩のいう号泣ものってタロ・ジロとかですよ」
- M「動物もの限定なの。人間の話ではちょっとやそつとじゃ泣かないわよ。私を泣かせてみなさい！」
- A「戦争ものはどうですか？『きけわだつみのこえ』は涙なしには読めません」
- M「戦争ものって・・・『かわいそうなぞう』とか？」
- F「動物から離れてくださいよ！」
- A「あとはここに有川浩の『別冊図書館戦争』などがございますが」
- F「！！それは無理ですね！真顔では読めない。恥ずかしすぎます」
- M「キザなセリフが多くて赤面ものだわー。冷静なAさんは真顔で読んでそうよね」
- A「そこまで冷静じゃないですってば。『植物図鑑』はふつうに読めましたけど」
- F「私も『植物図鑑』は大丈夫でした。あれはファンタジーだから」
- A「爆笑もの・号泣もの・赤面ものが出ましたね。他にはありますか？」
- F「ミステリーはどうでしょう？集中しすぎて乗り過ぎすかもかもしれませんよ」
- M「ミステリーといえば『裏染天馬シリーズ』がおすすめよー」
- F「『体育館の殺人』などけっこう本格派なんですよ。読者に手がかりを与えるタイプのミステリーです。電車では危険かも」
- A「読者のみなさんの「電車の中で読めない本」もぜひ知りたいですね！」
- F「ホンダラケポストに投稿してください。お待ちしております」

ホンダラケ

H29.06.01.

あなたの電車で読めなかった本経験、投稿してね。
<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

電車の中で読めない本特集

思わず吹き出したりキュン描写に赤面しちゃったり、真顔ではいられない！人前では絶対読めない！そんな本の特集です。容赦なく感情を揺さぶってくる本に出会っちゃってください。ただし読むときは1人でね♪

東京百景 又吉直樹 2013年刊 779.1/マタ



ご存じ「火花」の作者でありお笑い芸人である又吉直樹さんの、東京にまつわる百のエピソードをつづったエッセイです。私はためにしに電車を読んで吹き出しました。というのも、さすが芸人さんというべきか、短い数ページの物語の中でシュールな笑いが不意打ちのように襲ってくるんです。と思えば、はっとする一文があって言葉を失ってしまうことも。さびしい、楽しい、絶望、幸せ、……不器用な作者が東京で感じた悲喜こもごもが、笑えばいいのか泣けばいいのかわからない絶妙な語りで描かれます。電車の中で百面相したくない方は要注意！

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。
 本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。（もちろん、大人の方もお読みいただけます）
 2か月に1度、年6回発行予定です。
 皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今回は図書委員のメンバーをイラストつきで紹介してくれるようです♪



きっしー (高校2年生)

赤メガネがトレードマーク。真面目だが、ゴリラ。専ら恋愛小説を読む。橋本紡さんが好き。前回の本は私が紹介しました!



ほねっこ (高校1年生)

好きなことは1人で音楽を聴きながら読書をする。あとサッカーの試合を見ること。好きな本は伊集院静の「臯月」です。息子が父のために尽力するシーンが印象に残りました。



ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

リサイクル予備軍

938/ダル

～なぜ君は借りてもらえないのか～

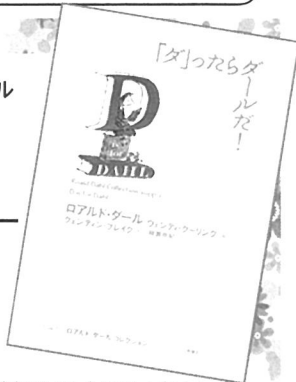
「ダ」ったらダールだ!

ロアルド・ダール:著 (ウェンディ・クーリング:編)

ケンティン・ブレイク:絵 柳瀬尚紀:訳 評論社 2007年刊

ロアルド・ダールはイギリスの有名な作家。映画化した『チョコレート工場の秘密』は知っている方も多いのでは。

この本はなぜ借りられないのか?めくってみるとなるほど、普通の本ではないですね。AからZまで順番に単語と解説が並んでいます。絵や写真もたくさんでなかなか楽しそうですよ。索引がついているので、ひとつ気になる言葉を調べてみます。「謎のオートバイ乗り」なんてどうでしょう。なにに、17歳のダールが変装してバイクに乗り、放課後轟音をひびかせて構内を疾走していた、と?しかも誰にも見破られなかったとか。このようなダールらしいユーモア溢れるエピソードがいっぱいで、単語からどんな話が飛び出すか予測がつかません。ダールのことがもっと好きになる、マニアックな事典です。



新着本Pick Up

漫画家たちの戦争シリーズ(全9巻)



210.7/マン

中野晴行:監修 金の星社 2013年~2017年刊

戦争はよくないって授業で習っても、体験していない私たちには戦争の本当をわかっていないかもしれない。本シリーズは漫画家たちがそれぞれの視点で戦争を描いたものをテーマごとにまとめています。今は亡き巨匠の漫画家から今も活躍している漫画家、ギャグ漫画で有名なあの人もきちんと戦争を描いたことがわかるこのシリーズ。漫画だから少し表現が怖い所もあるかもしれないけれど、真実だから目をそらさずに読んでみてね。

YA新着本

請求記号	タイトル	作者名
377.1/17	先生は教えてくれない大学のトリセツ	田中 研之輔
450/17	歩いてわかった地球のなぜ!?	松本穂高
913.3/45	宇治の結び 上・下	紫式部
Fタキ	不良品探偵	滝田 務雄

執筆者の腕がひたすらに試される名作本コラム

『金色夜叉』 尾崎紅葉

岩波書店
2003年刊

「毎年この日この月が曇ったならば

お前を恨んで泣いていると思え」

金色夜叉と言えば表紙にある女性を蹴り飛ばすこのシーン。今のご時世、どこから見てもDVにしか見えません!お嬢様のお宮と学生の貫一。将来を約束した二人だが、宮は自分の美貌に自信を持つあまり欲に目が眩み、貫一を振ってどこぞの金持ちと婚約をしてしまう。そして激昂した貫一は、許しを請う宮を熱海の海岸で非常に蹴り飛ばす!それでも怒りの収まらない貫一は冷酷な高利貸=金色夜叉として生きる道を選ぶが……。今から120年前に新聞連載していたそうですが、愛憎でドロドロなあげく未完、しかも文語体で読むの大変という罪作りの作品です。

金色夜叉



F/オザ